

新年を迎えて

学校長 太田 清史

昨年は、一昨年度末に起きた大震災による原発事故の対応に、国中が追われた年でありました。夏には四年に一度のオリンピックがロンドンで開催され、わが日本チームは過去最多のメダルを獲得して、被災地の方々に大きな力を届けてくれました。

年末には iP S 細胞を開発された京都大学の山中伸弥教授が、ノーベル医学生理学賞に選ばれ、日本中に喜びを与えてくれました。

一方では、原子力と同様、万能細胞の利用にあたっては、普遍的な生命倫理の確立が急務になってきました。「いのちの値打ち」や「必要ないのちとそうでないいのち」の選別が行なわれないよう、普遍的な倫理観に立って、我々はそれを監視する義務があります。

年末の総選挙では、それらの問題が争点となりましたが、結局は自民党の圧勝に終わり、今またアルジェリアで起きた邦人対象のテロの対応に追われています。

そんな中でも新年の幕開けは、大宇宙のあらゆる存在に、どこまでも平等に訪れます。一つたりとも、取りこぼしが無いのです。まさに手付かずの、まっさらな一年を、汚すことなく過ごしたいものです。

本校の T o B e H u m a n (よき世の人となる) という建学の精神は、どこまでも自他のいのちを傷付けることなく、世のため人のため、そして大宇宙のために、自らのいのちを生かし切って欲しいという願いに貫かれています。

新年に当たって、我々はみんなの命を生かすために何が出来るかを、いま一度明らかにしてみたいと思います。そのためにはまず、自分のしたいことを見つけ、それが

自分にできることであるかどうかを確かめるのです。その二つの要件が満たされれば、それが自分のしなければならないこと、すなわち「使命」であることがわかります。

T o B e H u m a n とは、生まれた意義と生きる喜びを感じつつ、そういう自らに期待されている独自の使命を果たしていくことなのです。